第6回　ネパール野球交流活動

活動報告書

2002年2月13日～3月6日

プール学院大学　異文化間協働センター

ネパール野球交流活動グループ

活動の始まり

プール学院大学では、1996年から海外研修プログラムの一環として、ネパールのポカラ市内にあるセカンダリースクール（日本でいう小・中学校）で、日本語を紹介するという研修旅行が毎年1回実施されています。

99年の3月に実施されたその研修旅行に当時野球部員であったメンバーが参加し、ネパール研修中もキャッチボールがしたいと思い、ゴム製のボールを鞄の中に入れていきました。そして、カトマンズの街角で野球部のメンバーと共にキャッチボールをして遊んでいると、歩いている数人が立ち止まり、もの珍しそうにその姿を見ていたのです。

それは日本語紹介を行っているネパール第2の都市ポカラ市でも同じことでした。そこから、ネパールには野球がないということがわかりました。

ある日、研修旅行の発案者でもあり、引率者としても同行していた当大学の松田教授から、ネパールに野球を広めないかとの誘いがありました。それなら是非とも引き受けたいと、帰国後知り合いに呼びかけたところ、たくさんの方々が協力して下さり、この活動が始まりました。

そして、ネパールのNGO団体であるESODEC（ネパール社会教育開発センター）の協力のもと、1校目の学校アマ・シンセカンダリースクールとの野球紹介活動が1999年の9月から始まりました。

そして、今年の2月で4年目を無事迎えることができました。

現在、私たちは年に2回（春と夏）ネパール第2の都市ポカラ市にある3校のセカンダリースクールの生徒たちと野球の紹介・交流活動を行っております。

皆様から温かいご協力をいただきまして誠にありがとうございます。
今年でこの活動も４年目を迎え、この度、第６回目の活動を無事終えて参りました。
その活動報告をさせていただきます。

期　間：　2002年2月13日 ～ 2002年3月6日
場　所：　ネパール　ポカラ市　アマ・シンセカンダリースクール
参加者：　藤岡恭兵　（プール学院大学　学部生）
　　小林洋平　（プール学院大学　学部生）
　　山本亜矢子（プール学院大学　学部生）
　　三浦昌広　（花園大学　学生）
　　村田佳奈美（プール学院大学　学部生）
　　萱野有美　（プール学院大学　学部生）
　　三上大輔　（プール学院大学　学部生）
　　赤松弘章　（プール学院大学　大学院生）
現地で活動に参加したメンバー：
　　佐原啓太　（プール学院大学　学部生）
　　高崎紀子　（プール学院大学　大学院生）
　　宮田春香　（プール学院短期大学　卒業生）
　　岩切梓　（プール学院大学　学部生）
　　吉本美也子（プール学院大学　学部生）

＊ 彼らは以前活動に参加したメンバーや別の活動でネパールに滞在していたメンバーで、滞在期間や参加日数は異なりますが、現地での練習やミーティング等は共に行ったので、第６回参加者に含ませていただきます。

全体の報告・感想

半年ぶりにネパールの地を訪れ、野球活動を行ってきました。今回の活動では 3 校のセカンダリースクールの生徒 39 人と交流することができ、一度雨で練習が中止になりましたが、その時以外は天気にも恵まれました。

アマ・シンセカンダリースクール（以下アマ・シン）の生徒たちは野球を始めて 3 年と経験が一番長く、個々の実力はかなり高いレベルまできていました。生徒たちは自分で考えてプレイすることができるようになり、もっと野球を学びたいという気持ちがひしひしと伝わってきました。そして何よりもアマ・シンの生徒たちの野球に対する情熱を確認することができました。3 年も続けてきた生徒たちは日本の野球少年と同様、いつでも野球のことばかり考えているようでした。

カリカセカンダリースクール（以下カリカ）の生徒たちは野球を始めて約 1 年というチームです。カリカの生徒たちは前回私たちが帰ってから今回訪れるまでの間、練習参加状況が良くなかったようで、チーム内で技術の差が激しいチームでした。毎日練習に参加していた生徒はかなり上達していて驚きましたが、練習に参加していなかった生徒はあまり上達していませんでした。そんな現実を見て、リーグ戦では誰もが野球を始めて半年のシリ・シッダセカンダリースクールに負けると予想したほどでした。結局その試合には何とか勝ったものの、内容はあまりよくありませんでした。次に訪問するとき、このチームがどのように成長しているか楽しみです。

シリ・シッダセカンダリースクール（以下シリ・シッダ）の生徒たちは野球を始めて半年というチームです。シリ・シッダの生徒たちには大変驚かされました。全員が初心者だった前回から半年が経ち、見違えたチームになっていました。抜き出た選手はいませんが、ほぼ毎日練習に参加し、野球に対して純粋に取り組む姿は周りから見ても気持ちいいの一言でした。また練習の成果がはっきりと表にでているので私たちも嬉しい限りでした。またカリカとの試合では全員が勝つぞという気持ちをむき出しにして戦っている姿に感動させられました。次回も驚くほどの成長を期待しています。

今回の活動の目的は、今までよりも高い技術（守備の動き、バッティングの向上、走塁の動き、ルール理解、練習後のストレッチの説明）の指導を行うことと、そして何よりも野球の楽しさをさらに知ってもらおうということでした。なぜなら将来、野球の楽しさを知らない大人たちが野球の委員会を作っても、活動の真意を理解してもらうのは難しいだろうと思ったからです。野球の楽しさを知っている生徒たちが中心になって初めて、この活動が本当にスタートするのだという考えがあったため、それを知ってもらおうと一生懸命活動を行いました。日本では雰囲気を盛り上げるため、当たり前のように出している「かけ声」も、ネパールの生徒たちはなぜ声を出さなければならないのか、という理由が分からないようでした。だから、例えば誰かが良いプレーをした時、「ナイスプレイ」とひと声か

けることによって、どのくらいチームに活気が生まれ、よりみんなが一つになり、笑顔の溢れる楽しい野球ができるようになるのか、そういったことを理解してもらえるように活動を行いました。その結果、終盤になると生徒同士が自然に「ナイスプレイ」と言い合ったり、試合中には「リラックス、リラックス」と声をかけあったりしていました。声をかけあうことによって野球がさらに楽しくなるということを生徒たちも理解してくれたのだと思います。そして、そこから生まれる笑顔は本当にキラキラ輝いていました。

今回の活動は日本人メンバーが少ないため、出発前は私たちも不安を抱えていました。39 人という生徒たちをどのようにして教えようか悩みました。学校別に練習日を分けて行うか、ポジション別に練習日を分けて行うかなど、いろいろな案がでましたが、私たちはいつもみんなの顔が見たい、いつもみんなで野球がしたいという考えのもと、全員で野球を行うという意見で一致しました。本当にみんなでやりたいという気持ちだけでできるのか不安でしたが、いざ練習を始めてみるとそのような不安は一気に消え去っていきました。それはこれまで 3 年間野球を続けてきたアマ・シンの生徒が、カリカ、シリ・シッダの生徒たちにルールやカバーの動きを教えている光景が見られたからです。この光景を目にして、この生徒たちなら将来野球をネパールに広めてくれるという確信が持てました。

3 校の生徒たちは本当に純粋でまっすぐな気持ちで野球に取り組んでいたので、私たちも少年の心に戻り、ひたむきに野球に熱中してしまいました。今回の活動でも、野球で交流することから生まれる笑顔が消えることはなく、グラウンドはいつもにぎやかでした。

ネパールで活動を行ったのはわずか 15 日間でしたが、生徒たち全員のさらなる野球技術の向上、野球の素晴らしさ、楽しさをより深く知ってもらおうという目的を果たすことができたと思います。そして、野球というスポーツを通して、日本人メンバー全員が生徒たちとコミュニケーションをはかり交流することができました。

また、今回の活動は野球以外の場においても、いろいろと良い社会勉強ができました。活動内容は、ネパールでこの活動に協力して下さっているボランティア団体「ESODEC」の理事長、D.M.ヒラチャン氏にお会いして、ネパールの情勢などを聞きながら決めました。「ESODEC」はリーグ戦の実施や優勝チームにトロフィーを贈呈するなど、様々な意見を出して下さいました。そのおかげもあり、今回の活動も無事終えることができました。「ESODEC」をはじめ、このネパール野球交流活動にご協力いただいている全ての人に感謝しています。野球をしている子供たちの笑顔がなくならないかぎり、ネパール野球交流活動を続けていきたいです。

（報告者：藤岡恭兵）

スケジュール

・事前研修

出発前に10回程の事前研修を行い、野球の練習をはじめ応急処置、ネパール語、ネパールの社会、歴史、宗教などについて勉強しました。

また、プール学院大学での学内募金活動や大阪駅周辺での街頭募金活動も行いました。

現地でのスケジュール

日付	午前	午後
2月13日		カトマンズ着
14日	カトマンズ大学訪問	日本大使館訪問
15日	ポカラへ移動	
16日	オープニングセレモニー	野球練習開始 1ヶ所ノック（学校別）
17日	フリーバッティング（学校別）	・バッティング（走塁など、ランナーの練習も含む） ・1ヶ所ノック
18日	・内外ノック ・ランニングゲーム	雨のため、ルール勉強会 各ポジションの動きの説明 （中継、カバーなど）
19日	休日	
20日	・各ポジションの動きの練習 （中継、カバーなど） ・1ヶ所ノック	・各ポジションの動きの練習 （中継、カバーなど）
21日	フリーバッティング ＜練習後＞ カリカ、シリ・シッダ学校訪問	雨のため、学校で親睦を深める
22日	全交通機関ストライキのため、休日	
23日	全交通機関ストライキのため、休日	
24日	交流試合（日本人メンバー・生徒　混合チーム）	
25日	フリー	・内外ノック ・ピッチャー、キャッチャーの指導 （ボークなど）
26日	実践形式の練習	フリー
27日	試合　(9：2) ポカライエティーズ VS　シリ・シッダラムローズ	フリーバッティング（学校別）
28日	試合　(9：8) カリカサムライズ VS　シリ・シッダラムローズ	・ノック ・フリーバッティング ・トスバッティング
3月1日	試合　(12：2) ポカライエティーズ VS　カリカサムライズ	・ノック ・フリーバッティング ・トスバッティング

2日	試合　(5：3) ラリグラス VS　ポカライエティーズ	・試合　(6：5) ラリグラス VS ネパール選抜 ・クロージングセレモニー ・生徒たちとダンスパーティー
3日	カトマンズへ移動	
4日	福祉施設を訪問	フリー
5日	フリー	お別れパーティー
6日	帰国	

＊ラリグラス＝日本人チーム　　ポカライエティーズ＝アマ・シン
カリカサムライズ＝カリカ　　シリ・シッダラムローズ＝シリ・シッダ

・毎日の練習前には全員（試合のときは各チームごと）でウォーミングアップ（ランニング、準備体操、キャッチボール）を行いました。
・練習後にはその日の練習内容や今後の練習などについて、生徒たちと話をしました。

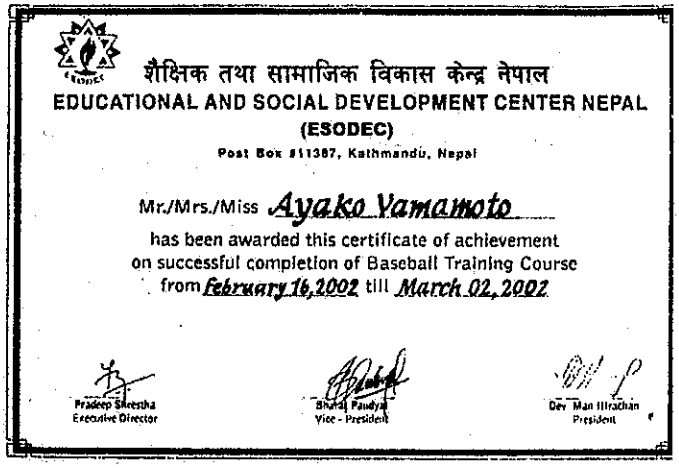
1日のスケジュール

時間	内容
6：00	朝食
6：30	グラウンドへ出発
6：50～8：50	練習
9：00～15：50	フリー
16：00	グラウンドへ出発
16：20～18：30	練習
18：40～19：50	フリー
20：00	門限

＊15：00頃から午後の練習内容を決めるためのミーティング

＊20：00頃からその日の感想・反省、次の日の練習内容を決めるためのミーティング

クロージングセレモニーではネパールNGOのESODECから感謝状をいただきました。


शैक्षिक तथा सामाजिक विकास केन्द्र नेपाल
EDUCATIONAL AND SOCIAL DEVELOPMENT CENTER NEPAL
(ESODEC)
Post Box #11387, Kathmandu, Nepal

Mr./Mrs./Miss Ayako Yamamoto
has been awarded this certificate of achievement
on successful completion of Baseball Training Course
from February 16,2002 till March 02,2002

Pradeep Shrestha, Executive Director
Bhakta Paudyal, Vice - President
Dev Man Ilrachan, President

・事後研修
学内用ポスターの作成、報告ビデオの作成、報告書の作成

（報告者：山本亜矢子）

試合の結果報告

今回の活動で、初めてNEPAL BASEBALL CHAMPION CUPをリーグ戦で行いました。試合結果は以下の通りです。

2月27日（水）　ポカライエティーズ　vs　シリシッダラムローズ
9　－　2
2月28日（木）　カリカサムライズ　vs　シリシッダラムローズ
9　－　8
3月　1日（金）　ポカライエティーズ　vs　カリカサムライズ
12　－　2

優勝	ポカライエティーズ	2勝0敗
準優勝	カリカサムライズ	1勝1敗
3位	シリシッダラムローズ	0勝2敗

＊ポカライエティーズ　：アマ・シン セカンダリースクール
カリカサムライズ　：カリカ セカンダリースクール
シリ・シッダラムローズ：シリ・シッダ セカンダリースクール

優勝したポカライエティーズは日本人チームのラリグラスと対戦しました。その結果、5-3でラリグラスが勝ちました。

また、クロージングセレモニーでは3校のセカンダリースクールを混合したチームとラリグラスで試合を行った結果、6-5 でラリグラスが勝ちました。そして、優勝したアマ・シン セカンダリースクールの生徒たちにはネパールNGOのESODECよりトロフィーが贈呈されました。

（報告者：村田佳奈美）

カリカ セカンダリースクール訪問

私たちは２月２１日にカリカセカンダリースクールに訪問し、クリシュナ校長からこの活動についてのお話を聞いてきました。

・クリシュナ校長のお話

今まで、アマ・シンセカンダリースクールのグラウンドの一カ所で野球をしてきたけれど、できるだけ多くの場所を利用して野球をすると、より多くの人が野球を見て、より一層野球が広がるのではないでしょうか。
今は石がたくさんあり、平らではないカリカセカンダリースクールのグラウンドを整備し、フェンスをつけ、野球ができるような環境を作ることも考えています。また、現在の委員会の在り方を変え、子供も含めた委員会を創るべきです。

また、校長はネパールで野球を広めるために今後、委員会は何をすべきかを私たちに尋ねられました。私たちは「野球道具を持っているのはアマ・シンセカンダリースクールの生徒だけなので、各学校で野球道具を保管・管理し、現在野球活動に参加していない生徒たちにも貸し出してみてはいかがでしょう。そうすれば、もっと多くの子供たちが野球に触れることができるのではないでしょうか。私たちはカリカ セカンダリースクールのグラウンドで野球ができる日を楽しみにしています。」ということを答えました。

（報告者：萱野有美）

生徒たちの声

交流活動を行った生徒たちに野球などについてのインタビューをしました。

1、名前（年齢）	7、親の野球に対する意見
2、ポジション	8、好きな科目
3、何の練習が１番楽しいですか？	9、将来なりたい職業
4、家からグランドまでの時間（徒歩）	10、100ルピーあったらどうしますか
5、野球道具で作れそうなものは？	11、日本のイメージ
6、野球を広めるには何が必要ですか？	12、あなたの宝物

＊100ルピー＝およそ200円

＜アマ・シン セカンダリースクール＞

1、ラジドゥー（17歳）
2、ピッチャー
3、バッティング
4、5分
5、ベース
6、他の学校に教える
7、自分の意志に任せる
8、数学
9、軍人
10、貯金する
11、先進国
12、勉強

1、ビシャル（16歳）
2、キャッチャー
3、バッティング
4、5分
5、ベース
6、他の学校に教える
7、やりたいことはやりなさい
8、何でも好き
9、考えていない
10、貯金する
11、豊かでお金持ちの国
12、勉強・スポーツ

1、ブッディー（17歳）
2、センター・ピッチャー
3、バッティング
4、25分
5、バット
6、野球人口を増やす
7、新しいスポーツだから賛成
8、科学
9、考えていない
10、貯金
11、きれい
12、勉強

<カリカ セカンダリースクール>

1、チーズ（16歳）
2、キャッチャー
3、キャッチング
4、30分
5、バット
6、新聞に載せる、
野球道具を売る
7、賛成
8、英語・数学
9、考えていない
10、野球宣伝の費用にする
11、先進国
12、勉強・スポーツ

1、イブラチ（16歳）
2、ファースト
3、すべての練習
4、2分
5、グローブ
6、テレビで宣伝する
7、賛成
8、英語
9、プロ野球選手
10、母にプレゼント
11、仏像やお寺が多い
12、お金

1、ディペン（15歳）
2、センター
3、ノック
4、20分
5、ベース
6、今野球をしている生徒
が教える
7、よく学び、よく遊べ
8、数学
9、プロ野球選手
10、弟に靴下をプレゼント
11、他国に協力的である
12、お母さん

1、モハン（17歳）
2、サード
3、バッティング
4、10分
5、ベース
6、テレビ・新聞で伝える
7、賛成
8、ネパール語
9、プロ野球選手
10、母にプレゼント
11、技術が優れている
12、勉強・スポーツ

＜シリ・シッダ セカンダリースクール＞

1、パルカス（15歳）
2、キャッチャー
3、バッティング
4、25分
5、バットにゴムを巻く
6、自分がよい選手になって、野球を教える
7、遊びなさい
8、数学
9、軍人
10、本、ノートを買う
11、いい国
12、両親

1、ラジュ（16歳）
2、ピッチャー
3、バッティング
4、30分
5、ベース
6、野球とは何かをテレビで宣伝する
7、勉強もしなさい
8、科学
9、プロ野球選手になって、ネパール代表になる
10、勉強に必要なものを買う
11、いい人が多い
12、勉強・スポーツ

1、ラザン（16歳）
2、サード
3、キャッチボール
4、10分
5、バット
6、いろんな所で宣伝する
7、スポーツも１つの勉強
8、数学・科学
9、先生
10、勉強に必要なものを買う
11、いい人が多い
12、勉強・野球

1、ケム（15歳）
2、サード
3、キャッチボール
4、30分
5、バット
6、他の学校に宣伝する
7、遊びに行きなさい
8、数学
9、考えていない
10、文房具を買う
11、先進国
12、勉強・スポーツ

（報告者：三浦昌広）

シャムくん ナウラチくん対談

～ ネパールに野球が広まると思う？ ～

アマ・シン セカンダリースクールの生徒で、第１回目からこの活動を私たちと共に行っているシャム君（17才）、ナウラチ君（16才）と、「野球」についてどう考えているか、ということについて対談しました。

その時の対談内容を報告させていただきます。

質問は赤松弘章、通訳は花倉雄宇也、記録は宮田春香が担当しました 。

以下話者の名前を、赤松＝赤、シャム＝シ、ナウラチ＝ナ、と省略させていただきます。

活動全体について

赤　　：野球を初めてしたときの印象は？

シ・ナ：面白かった。

赤　　：じゃあ、それまでにやっていたスポーツは？

ナ　　：サッカー。でも今はやっていないね。

赤　　：野球の面白いところは？

ナ　　：やっぱり挟殺（ランナーを塁間で挟みアウトをとること）が面白い。

赤　　：野球にしかない良い点はなんだと思う？

シ・ナ：やっぱり峡殺かな。

シ　　：それとダブルプレイもいえるかな。

赤　　：ボールは蹴るより投げるほうが楽しい？

シ・ナ：投げるほうが楽しいよ。

赤　　：野球を３年やってきて、今では先輩になったけど今までに野球から学んだことはある？

ナ　　：ネパールにないスポーツをして、それが一番楽しいということを知った。今は、野球をやっている自分がすごくラッキーだと思っているよ。

シ　　：３年前には全然ベースボールもなかったし、全くイメージもしてなかった。だからびっくりしているところはあるね。

赤　　：ネパールに野球人口が広まっていくと思う？

シ・ナ：広まっていくというより、広げていきたい。ポカラからネパール全体に僕たちが広めていきたい。紹介していきたい。

ナ　　：僕たちが広めることはできる。でも、今はまだ道具等は作れないので、協力してもらわないとできないかもしれない。

赤　　：この先ネパールに野球は広まっていくかなあ。

シ　　：このグラウンド（アマ・シンセカンダリースクールのグラウンド）で野球をしていることが野球の広まる要素になっていると思うよ。というのは、ここの学校のグラウンドはフェンスもなくてどんどん人が（生活用の通り道として）通ってくる。人が通ってきたらこの野球を見て「何をしているの」といっぱい僕に聞いてきて答えている。僕の友達も同じように、野球っていうものがどんなものかについて僕らが教えたりしているところがいっぱいあるよ。

シャムくん

ナウラチくん

家族の理解について

赤　：親は野球をしていることについて何といっているの？

ナ　：野球に対して何も言わない。悪いとも言わないよ。

シ　：家族は何も言わない。お父さんは野球に興味を持ってくれているよ。

赤　：でもやっぱり勉強もしないと怒られるんだろ？

シ　：それについては、親は「同じレベルで野球も勉強もしなさい。」といっているよ。

赤　：日本も一緒だね。

シ　：試験前になったらほんとに厳しくなる。

赤　：それも日本と一緒だね（笑）

道具について

赤　：じゃあ、野球道具を自分たちで作ろうと思ったことってある？

ナ　：やっぱり今すぐに作るのは僕たちには難しい。

シ　：木のバットだったらできそうだね。

ナ　：ベースもできるね。

赤　：そうだね。スポンジに白い布を張ればできるね。

シ　：スパイクは？

赤　：サッカーのスパイクを使うことができるんじゃないかなぁ。

シ・ナ：うんうん。そうだね。

自由に

赤　：ネパールの野球について自由に話してくれるかな？

ナ　：え？二人で？？

赤　：うんうん。

シ　：ナウラチ君、野球は楽しい？

ナ　：うん！楽しいよ。

ナ　：シャム君。野球は面白い？

シ　：すっごく面白いよ！

赤シナ：終わっちゃった。（笑）

将来について

赤　：ネパールの野球の未来についてどうしていきたいと考えているの？

ナ　：僕たちでさっき話してたんだけど、毎日みんなを集めて野球をして、みんなから１ルピー（約２円）でいいからお金を集めたい。それで靴やグローブが破けたりしたらそれを修理する。修理するぐらいだったら僕たちでできそうだから、そういう意味でも僕たちの間でも野球を広める委員会を作っていきたい、と考えている。それから、自分たちで事務所を作って野球道具も自分たちで管理したい。市長を始めとしたポカラ市の野球を広める委員会に助けてもらいつつ進めていきたいと考えているよ。このグラウンドでの野球練習は自分たちで進めていきたい。

ナ　：分かったかい？

赤　：分かった。すばらしいね！！よく考えているんだね。

赤　：今はまだ学生で難しいけど、君たちと先生方で一緒に広めていけたらいいねえ。

ナ　：僕たちが考えている、自分たちで委員会を作って進めていく、ということについて協力してくれるかい？

赤　：僕と花倉は今回で卒業して、仕事を探さなければならない。だから年２回のこの活動に参加することは難しくなると思う。けど、野球を広めることで協力できることは一生関わっていきたいと考えているから一緒にやっていこうね！！

シ　：僕らもそれはあるね。

ナ　：僕らも学校を卒業したら仕事を探さなくてはならないし、結婚もするだろう。結婚もしたら家も建てなければならない。あなたも家を建てなくちゃならないでしょ？だから僕たちもバックに立って協力していくことになるだろう。

赤　：シャム君やナウラチ君みたいに野球を楽しむ人をもっと増やしていきたいね。

ナ　：僕たちが考えるに現状では難しい。だから僕たちが大きくなって委員会を作って僕たちであなた達を歓迎したいし、僕たちでこの活動を一緒にやっていきたい。

赤　：すばらしいね！！

ナ　：アリガトウ（日本語で）

赤　：この活動は、この先も年に２回プール学院大学のプログラムとして後輩たちが続けていくだろう。

ナ　：今回の活動で３校に野球を紹介していることは日本からの参加者にとっても楽しいことだ、ということは分かっている。だから僕たちもいろいろな学校を廻ってあなたたちのように野球を教えたい。それはこの活動と一緒で僕たちにとっても絶対にうれしいことだと思う。

赤　：さいこう！！

この先も野球道具の協力を継続させていく、ということはすごく難しい。日本でも野球道具は貴重だか

らね。でも気持ちは一つでがんばっていこう！

シ　：そうだね、これからも協力し合ってがんばっていこう！！

その他

赤　：じゃあ最後に簡単な質問します。

赤　：いいプレイをした日の夜は眠れる？

シ　：もちろん眠れないよ。

赤　：じゃあ、この前の試合の前夜はよく眠れた？

ナ　：野球のことであまり眠れなかったよ。

赤　：授業中も野球のことばっかり考えていないだろうねぇ？

シ　：当たり前だよ。野球のことばっかりイメージしてるよ。

対談の様子（アマ・シンセカンダリースクールのグラウンドにある大きな木の下で対談しました。）

対談を終えて

3年目にして初めてこのような対談を試してみたのですが、私たちが考えていた以上にネパールに野球を広めることについて真剣に考えているな、という印象を持ちました。

今から3年前、野球が知られていない国ネパールで「野球を紹介し、ネパールに野球からでる笑顔が広まってほしい。」という願いからこの活動は始まりました。そして、今回の対談から、私たちの願いは生徒たちの願いにもなりつつある、ということを実感しました。また、生徒自身が、ポカラという地で最初に野球が始められたということに誇りを持っていると思いました。

野球道具についてもいろいろ考えているようで、私たちが活動している中でも、生徒たちの道具を大切に思う気持ちが強く伝わってきました。実際、生徒たちがグラウンドでキャッチボールをしていて暴投でボールが茂みに転がっていったときも、見つかるまで必死に探していました。

そしてなによりも驚いたのは、生徒たちの中でも野球を広めるグループを作ることを考えている、ということです。「僕たちも、野球を広める活動をしていきたい」と目を輝かせて話す生徒たちの姿には感動すら覚えました。

私たちが目指していることは、一方通行的な「協力」ではなく、一つの目的を持ち、そこに関わる人全てが同じ目線で共に活動していきたいということです。つまり、それが「協働」です。今回の対談を終え、この活動が少しずつ「協働」という言葉に近づきつつあるということを強く感じました。

また、最後には野球が好きな者同士の会話になり、日本とネパール、国は違っても野球好きは世界共通だと感じることができました。

今私たちがこうして関わっている生徒たちが、将来ネパールでの野球の発展に大きな役割を果してくれそうな気がしました。

（報告者：赤松弘章）

参加者の声

藤岡恭兵（3回目）　　好きな言葉：迷わずに

今回のネパール野球に参加して、子供たちの野球に対する気持ちを知りました。子供たちの野球に対する情熱は本物でした。みんな純粋で、真っすぐな気持ちで野球に取り組んでいたので、本当に子供たちと野球をしていて気持ちよかったです。ネパール野球に参加すると必ず、野球の原点となる楽しさを思い出させてくれます。私は今回もまた、これまで以上に野球の楽しさを知りました。

この活動はネパールの熱い野球少年がいる限り一生続くと思うので、これからもよろしくお願いします。そして、ご協力してくださったみなさん、ありがとうございました。

小林洋平（2回目）　　好きな言葉：愛・自由・希望

今回の活動は天気にも恵まれ、ヒマラヤの麓で元気いっぱいのびのびとした大変素晴らしい野球活動となりました。活動を盛り上げるためにも練習中に声を出したりして、自分自身めいっぱい楽しむことができました。

今回の活動はネパールの情勢やテロなどの問題もあり、準備に取り掛かるのがとても遅く、どうなるのか不安でしたが、無事に活動を終えることができ、本当によかったと思います。第7回の活動のときにはもっと余裕を持って進めていきたいです。

今回ネパールに行ったことで、改めてネパール野球交流活動はとても素晴らしい活動だと思いました。もっと多くの人にこの活動の素晴らしさを肌で感じて欲しいです。そのためにもこれからもがんばります。

山本亜矢子（2回目）　　好きな言葉：幸せ

今回は人数が少ないということもあって、苦労する面もありましたが、人数が少ない分、子供たちとより深く触れ合うことができました。また、子供たちの顔触れは前回と少し変わっていたのですが、子供たち一人一人の野球に対する情熱や野球をしているときの表情は何一つ変わっていませんでした。そして、私が今回の活動で一番嬉しかったことは、一人の子が「あやこに子供ができたときは僕たちが野球を教えるよ。」と言ってくれたことでした。私はその言葉を聞いたとき、嬉しくて涙が出そうでした。そして、たくさんの子供たちが「これからも野球を続ける」と言ってくれていたことも嬉しかったです。

私は今回も子供たちのプレーや言動に何度も感動させられ、子供たちからたくさんのことを教えられました。いい経験ができた3週間でした。私はこの活動がもっと素晴らしいものとなるように、これからもがんばっていきたいと思います。

三浦昌広（初参加）　　好きな言葉：自己探求

この活動を通じて出会えたみんなに感謝しています。この活動でさまざまな人の意志に出会い、心を動かされることがたくさんありました。例えば、文化の違いに触れ、それを理解し、受け入れることや物事をいろんな角度から見ること、そして思ったとおりに感情を表すことです。なにより自分のわくわくすることに一生懸命になるみんながかっこよかったです。

ネパールの子供たちとの野球生活を通じて、“心のままに接すれば、何でも楽しめるのではないか”とも思いました。私が小さいときに感じた好奇心をみんなも持っていて、その頃の気持ちを再び思い出しました。もし、彼らがオリンピックにでるようなことになれば、大きな声を張り上げて心から喜び、また同じように触れ合いたいです。そうなるようにも、このネパール野球活動がずっと続くことを願っています。

村田佳奈美（2回目）　　好きな言葉：忍耐

今回参加者が少なかった分、みんなの考えがよく伝わり、意見がぶつかって悩むこともありました。しかし、みんなどうしたら子供たちと良い野球ができるか、もっと野球を楽しんでもらうにはどうすればいいのかという考えは同じでした。そして、そうするために自分がやるべきことを一人一人がいつも真剣に考えていました。

子供たちの野球をしているときの楽しそうな笑顔や日本人メンバーが子供たちと交流しているときの笑顔、真剣に野球をしているときのまなざしはいつもすごく輝いていました。みんなのそんな笑顔を見ることができ、本当にこの活動に参加して良かったと思いました。そして、この活動から生まれる笑顔がもっと広がっていってほしいと思います。

萱野有美（2回目）　　好きな言葉：ナイスベースボール

今回この活動に参加して、いろんなことを考え、学び、自分が成長することができたと思います。私はこの活動に参加して初めて皆で同じ目標を持って、1つの悩みを抱え、話し合い、どうすればよいか考えることの素晴らしさを体験しました。

私は今回で2回目ですが、前回はただ「楽しかった」という言葉で終わっていたことが、今回の参加で「よかった」という言葉に変わりました。辛いこともたくさんあったけど、それが今ではプラスになっています。

三上大輔（初参加）　　好きな言葉：楽々

今回初めてネパール野球に参加しました。ネパールに着いた瞬間からびっくりすることの連続でした。そして、全てが新鮮でした。ネパールの子供たちの歓迎がとても嬉しかったです。そして、彼らのする野球はすごく上手かったと思います。毎日ノックやバッティングなどの練習をしました。その中で僕自身も少しは成長したと思います。とにかく楽しくて、眠るのが惜しい程でした。そんな毎日の中で友達がたくさんできました。それが一番の幸せだと思います。他にもたくさんの体験をしました。洞窟、コウモリ、夕焼け、満天の星空、日の出、雨上がりの虹もずっと大切な宝物です。

赤松弘章（6回目）　　好きな言葉：愛と夢・地球・ナマステ

今回初めて参加者として、この活動に参加させて頂きました。どうすれば子供たちと楽しく、安全に野球ができるのかと遅くまで話し合い、悩み、学んでいる日本からの参加者、そして、「野球が好きだ」と早朝・夕方の練習に参加しているネパールの子供たちをみると、改めてこの活動が素晴らしいものだと実感しました。そして、私たちが指導するだけでなく、第１回からこの活動に参加していた子供たち、いわゆるオールドメンバーが新しく参加している子供たちに教えている姿を見て、野球に対する情熱を感じ、感動すら覚えました。

この活動が今ここにあるのも皆様のお陰です。本当にありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願い致します。

佐原啓太（3回目）　　好きな言葉：日進月歩

毎回まったく違った活動に変化します。日本人メンバーも変わり、ネパール人メンバーも変わり、それぞれの想いも当然変わってきます。しかし、ネパールに野球を広めたいという情熱とその時を過ごした瞬間のそれぞれのメンバーとかんじたリアルな体験と想いは僕の中で変わることなくありつづけます。

この活動に協力してくれている皆さんに本当に感謝しており、できれば生のネパール野球を味わって欲しいです。

（報告者：三上大輔　村田佳奈美）

一年間の現地活動を終えて…

花倉 雄宇也（通称：ヤック）

私は2001年3月25日から一年間、ネパール野球交流活動の一環として、現地活動を行なってきました。そして、活動を終え、2002年3月20日に帰国して参りましたので、活動報告をさせていただきます。

私が最初に思うことは、この一年間は「ネパール人と日本人」との交流ではなく、『人間と人間』のコミュニケーションだったということです。

私はネパールに行く前に少しはネパール語を勉強していたのですが、実践になると上手く伝えることは不可能であり、英語もろくに出来ない私にとっては毎日が戦いでした。

「自分の気持ちを伝えるにはどのようにすればいいか」ということを体で表現するには難しすぎることも沢山ありました。しかし、大切なのは相手の「理解しようとする気持ち」であり、これが私を助けてくれる大きな力となりました。

これは野球に関しても同じことであり、「言葉が通じない。ならばどうすればいいか？」その答えは「伝えたいこと、教えたいことを一所懸命何時間かかってもいいので、自分の伝えたい気持ちや相手の理解したい気持ちを大切にすることが必要である。」ということでした。

ネパールでの生活が始まった頃、私はこのような問題でいろいろと悩みましたが、結局、伝わらなかったことはなかったのではないかと思います。

野球の練習は日曜日から金曜日の間、朝は6時半から8時半まで、夕方は4時半から日没まで行いました。また、ネパールでは土曜日が休日になるので、土曜日はできるだけ試合をし、そこから野球を学んでもらう、というようにしていました。活動中はもちろん楽しかったという気持ちも多くありますが、非常に苦しい時期もありました。それは野球を紹介することに悩んだのではなく、正直言って、生徒たちとの関係で悩みました。最初に「『人間と人間』のコミュニケーションだった」と述べましたが、相手はネパール人であり、しかも15歳～17歳の男の子、まれに13歳や14歳の生徒もいました。野球の楽しさがまだいまいち理解できていない生徒は少しきつく叱ると次の日には来なくなるなどということは日常的でした。

それでも、野球の楽しさ、面白さ、難しさを理解してくれる生徒たちは徐々に増え、厳しい練習が終わったときにも、今日の練習内容を笑顔で話し合っている生徒たちがいました。そのときの生徒たちの表情は素晴らしく、今でも忘れることは出来ません。彼らは非常に正直で、練習が終わった後の彼らの表情が、自分のその日の野球指導に対する評価に繋がることもありました。

雨季（7月～9月頃）にも大変悩まされました。朝と夕方の練習が雨で中止になってしまうと、他の仕事がない日は一日中何もすることがなくなってしまうこともしばしばありま

した。もちろん「これではいけない。」と思い、ルール説明会を開いたりもしましたが、予想に反して、練習に参加している生徒たちでさえも、雨が降るとなかなか学校にも来ず、思ったようには出来ないということが現実でした。毎日毎日降り続く雨に“心までもが腐ってしまう”そんな感覚に陥った時期もありました。

しかし、そんな気持ちを奮い立たせたのは9月に日本から来るネパール野球交流活動グループの存在でした。「彼らはこの活動に全力で取り組んでいる。そんなみんなの気持ちを考えると、ダメな自分は見せられない。」という思いがあったからこそ、雨季を乗り越えることが出来たと思います。

第5回、第6回の野球交流活動もすばらしい活動にすることができたと感じ、本当にこの活動に参加してよかったと思います。これは自分にとって、大きな力となるものであり、なによりも、このような機会を与えてくれた協力者の皆様には言葉では表せないほどの感謝の気持ちでいっぱいです。協力して頂いた皆様の思いは確実にネパールに届いています。私が一年間見てきた生徒たちの笑顔を協力してくれた皆様に生でお見せしたいくらいです。

生徒たちは確実に野球をつかんできています。野球を自分たちのものにしようとがんばっています。あの生徒たちの気持ちは一生続くと信じています。そして、彼らが大人になって、彼ら自身が指導者になり、やがてネパールの人々すべてに野球という文化が染み渡ることを信じ、これからも私たち野球交流活動グループはがんばっていきます。どうかこれからも応援よろしくお願い致します。

最後に、私はこの一年間、日本では味わうことの出来ない経験をすることができました。きっと、この経験が私の一生を変えるのではないかと思います。忘れていけないことはそれを創ってくれたのは野球を心から楽しんでくれる生徒たち、協力してくださる皆様、そして毎日足を運んだグラウンドであるということです。もう一度行きます。必ず。それが5年後か10年後か分かりませんが、もう一度あのグランドに立つことを夢見て、これからもがんばっていきます。

本当に一年間ありがとうございました。

（報告者：花倉雄宇也）

１年間の現地活動について・・・

2002 年の 5 月より、今年度、プール学院大学国際文化学部を卒業した園田健弥（23 歳）が、花倉雄宇也の後を継ぎ、１年間ネパール、ポカラ市にあるアマ・シンセカンダリースクールで野球交流活動を行うことが決定しております。園田健弥は第 3 回、4 回、5 回と 3 度ネパール野球交流活動に参加しており、第 5 回の交流活動では代表者として参加しました。

園田健弥（通称：Q）

１年間の活動予定

1、アマ・シン、カリカ、シリ・シッダの３校に野球の楽しさをより深く理解してもらう。

現在、アマ・シンの生徒はルールをほぼ完璧に理解しているので野球技術の向上を目指します。カリカ、シリ・シッダの生徒にはより野球の楽しさを理解してもらうため、アマ・シン同様、野球技術の向上を図るとともに、ルール説明を重点的に行います。また、各学校でチームを作りそれぞれ試合なども行う予定です。

2、アマ・シンの先生方を中心として成る野球委員会の結束をさらに深め、ネパールに野球が広まるよう活動を進めていく。

先生方に交流の趣旨や野球の楽しさをさらに理解してもらうため、希望があれば実際に野球を行ってもらい、生徒や日本人メンバーと同じ目線から野球を見てもらおうと考えております。これには、野球道具を実際に使ってみることにより、より道具の大切さを認識してもらえるという目的も含まれております。

3、１年間で 4～6 校まで交流校を増やす。

交流校を増やすことには、グラウンドがない、または狭いといった設備面での問題に加え、年２回の交流活動時に人数が多く危険性が増し、趣旨である交流もできない生徒がでてくる等の問題が予想されます。そのため、これについては日本メンバーと連絡を取りながら進めていく予定です。

4、アマ・シンの生徒を中心として野球委員会を結成し、交流校を増やす。

アマ・シンの生徒が生徒自身で野球委員会を結成し、他校に野球を教えに行きたいと言っております。これは日本人参加者、協力者にとっても非常にうれしいことであり、ぜひ一緒になって進めていきたいと考えております。基本的に他校に野球を教える時は日本人指導者が教えるのではなく、アマ・シン、カリカ、シリ・シッダの生徒が中心となり、生徒が生徒にルールや技術を教えるように進めていく予定です。そのため、現在の３校の生徒に技術を教えるとともに、野球の教え方を伝えるのも重要になります。なんのための練習か？なんの役にたつのか？ということはもちろん、特に怪我のないように、練習にはたくさんの危険が伴うということを重点的に伝えたいで

す。

5、道具の管理、年２回の交流活動の準備、参加者、協力者への報告などを行う。

アマ・シンの学校だけに道具を管理してもらうのではなく、カリカ、シリ・シッダにも道具管理を徹底してもらう予定です。それにより、それぞれの学校で野球普及に対する認識、自立心を高めてもらいたいと考えております。また、ネパール野球交流活動のホームページに１週間ごとの活動内容を掲載する予定です。

現地派遣活動をするにあたって

私はネパール野球交流活動に第３回、４回、５回と参加しており、ネパールで野球の楽しさが理解してもらえるように、また野球が広まるように、参加者、協力者と共に頑張ってまいりました。毎回、交流活動に参加した時の感想は違っており、常に上進しようとするネパール野球交流活動はとても楽しく、大学生活の中で良い経験、思い出になりました。

この１年間は野球を教えるだけではなく、野球を広めるための組織造りを重点的に進めていきたいと考えております。そのため、先生方、生徒たちが自分達の手で野球を広めていきたいという気持ちを１番大切に考えていきます。また、このように思う先生や生徒が一人でも増えていくように野球の楽しさ、交流活動の意義を理解してもらえるように進めていきます。このような思いが一人で野球を教えるという不安もある中に大きな力を与えてくれると確信しています。

数年後、数十年後ネパールに野球が広まる土台はできていると思います。私はネパールに野球が広まることにより、日本の野球導入と同様にネパールの経済発展に何らかの関わりを持つことができると考えております。また、私が１年間ネパールに行くことで、ネパールに野球が普及すると共にプール学院大学とアマ・シンセカンダリースクールとの国際交流だけでなく、日本とネパールとの国際交流関係の一役に繋がることを願っております。

ご協力者の皆様へ

今までこの活動を支援していただいたご協力者の皆様には大変感謝しております。私が活動する資金も生徒が使っている野球道具も皆様のご支援があればこそできることです。皆様のお気持ちは確実に生徒たちに伝わっており、活動の中から出る彼らの笑顔はすばらしいものです。ぜひ、１度ネパールに来て一生懸命野球をしている姿を見ていただきたいと思います。

また、ホームページにて１週間ごとの活動報告を行う予定ですので、お暇があればぜひご覧いただきたいと思います。

今後ともご協力、ご支援よろしくお願い致します。

（報告者：園田健弥）

会計報告

今回の活動に伴う収支報告をさせて頂きます。

収入		支出	
前回より繰越金	50,609	花倉雄宇也　派遣費	40,000
ご協力者の方々より	96,200	第６回交流活動費	14,477
街頭募金　(H.14.2.3)	110,583	交際費・雑費	10,550
学内募金(プール学院にて)	40,968		
計	298,360	計	65,027

尚、次回への繰越金は、233､333円です。

たくさんの方々から、活動費及び道具の寄付をして頂きました。
ご協力頂いた皆様は、以下の通りです。

アスレチックBASEBALL CLUB様　アラン・J・ベセット様　有村一夫様　和泉サークルズ様　和泉少年野球軟式野球協会様　井上治子様　いぶきのボールパークズ様　岩井都蔵様　岩坂正雄様　岩崎力様　植野雄司様　内海章雄様　太田垣裕子様　太田洋子様　大屋純子様　小川ゆり子様　沖上スポーツ様　オリックスブルーウェーブ様　梶村義行様　加羽千代美様　亀井慶二様　苅野正美様　川崎好重様　川口陽子様　木川田一郎様　北山泰久様　木下幸典様　草竹和信様　黒田廣美様　小坂荘園子供会様　小嶌智弘様　小西康元様　小林哲也様　権瞳様　西道実様　幸ジュニアファイターズ様　坂本和博様　柴田あぐに様　ゼット株式会社様　高谷耕作様　多田圭吾様　鶴野麻里子様　D.M.ヒラチャン様　寺川克様　中川弘一様　中村真由美様　中山雄次･昌子様　南松ファイターズ様　ネットワークHITO様　西尾宣明様　西川節行様　西村嘉昭様　西本匡克様　橋本守･真理子様　朴聖雨様　林暁美様　藤井久仁子様　藤倉寿美子様　堀池ちづこ様　本田明様　松田浩志様　マッセル・ホワイト様　三島文子様　御手洗佐与子様　箕浦史郎様　宮川多美恵・絢江様　村瀬晴彦様　村瀬寿代様　室山皓之助様　森定玲子様　森美幸様　弥佐康志様　山崎美恵子様　湯浅俊昭様　UCC様　吉田等様　吉田義男様　米田歩様
街頭募金にご協力くださった方々　学内募金にご協力くださった方々　プール学院教職員の方々　プール学院同窓会の方々　ミズパ会の方々

(50音順)

ありがとうございました。

第６回野球交流活動で現地に持参したものは以下の通りです。
キャッチャーミット３つ　ライン代用ひも２本　救急セット１個　乾燥剤１袋

(報告者：村田佳奈美)

今後の予定

・ 第７回ネパール野球交流活動

期間：８月下旬～９月上旬（約３週間）

場所：ネパール　ポカラ市　アマシンセカンダリースクール

目標：アマシン　　：日本人チームに勝ち、高レベルの野球を展開させる。
そして、他校の生徒に野球の楽しさを伝える。

カリカ　　：アマシンに勝って、優勝を目指す。
さらに練習して細かいミスを無くす。

シリ・シッダ：個人の技術を向上し、試合で初勝利を目指す。
そして、今まで以上に野球の楽しさを知ってもらう。

・ 現地派遣員

園田健弥（プール学院大学卒業生）が５月からネパールへ行き、現地で野球交流を行う予定です。

・ 同窓会の設立

第１回野球交流活動からの参加者を名簿にし、今まで携わった人に活動報告を行う。

・ ネパール文化紹介

日本語研修と同様に帰国後、近隣小学校を訪問しネパール文化、野球を紹介し、小学生との交流を図る予定です。

これらの活動、また今後の活動に伴う資金や道具が不足しております。
皆様の暖かいご協力をよろしくお願い申し上げます。

・ **活動資金**

UFJ銀行 船場支店 普通口座 3984578
ネパール野球交流活動基金

・ **野球道具**

大阪府堺市槙塚台４－５－１　　TEL：072－292－7201
プール学院大学　異文化間協動センター　ネパール野球交流活動グループ

（報告者：小林洋平）

ネパール野球写真集

ナウラチ
（アマ・シン）

チーズ（カリカ）

シャム（アマ・シン）

ラジュ（シリシッダ）

(報告者・小林洋平　山本亜矢子

連　絡　先

住　所：　大阪府堺市槇塚台４－５－１
プール学院大学　異文化間協働センター
ネパール野球交流活動グループ

ＴＥＬ：　072－292－7201

ホームページ：　http://nepalbaseball.tripod.co.jp

街頭募金活動教本

募金活動は明るく元気良く！

私達はそれぞれ、いろいろな思いでこの活動に参加していると思いますが、街頭募金を行なう場合、はたからみれば一種のボランティア活動と受け止められてしまいます。そのため、募金を呼びかけるときは明るく元気良く活動を行ないましょう。

まず、活動で必要なものは「声」です。「ネパール野球紹介活動に募金のご協力お願い致します！」「ネパールに野球を広める活動をしています。活動資金のご協力お願い致します！」などといったことばを歩行者によびかけましょう。

しかし、歩行者の場合、あまり長い内容の呼びかけを行なうと逆効果を生むことになってしまうかもしれません。歩行者が通りすぎる前に一つの呼びかけが終わるぐらいがよいでしょう。

また、横断歩道の横で呼びかける場合、信号待ちをしている方がおれば、少し詳しく話をすると良いでしょう。

募金活動のポイント

街頭募金活動は、大きく分けて次の３つの重要なことがらがあります。

・ 募金活動時のメンバーの立ち位置　　PM2～ 8~9.

・ 活動時間

・ 広報活動

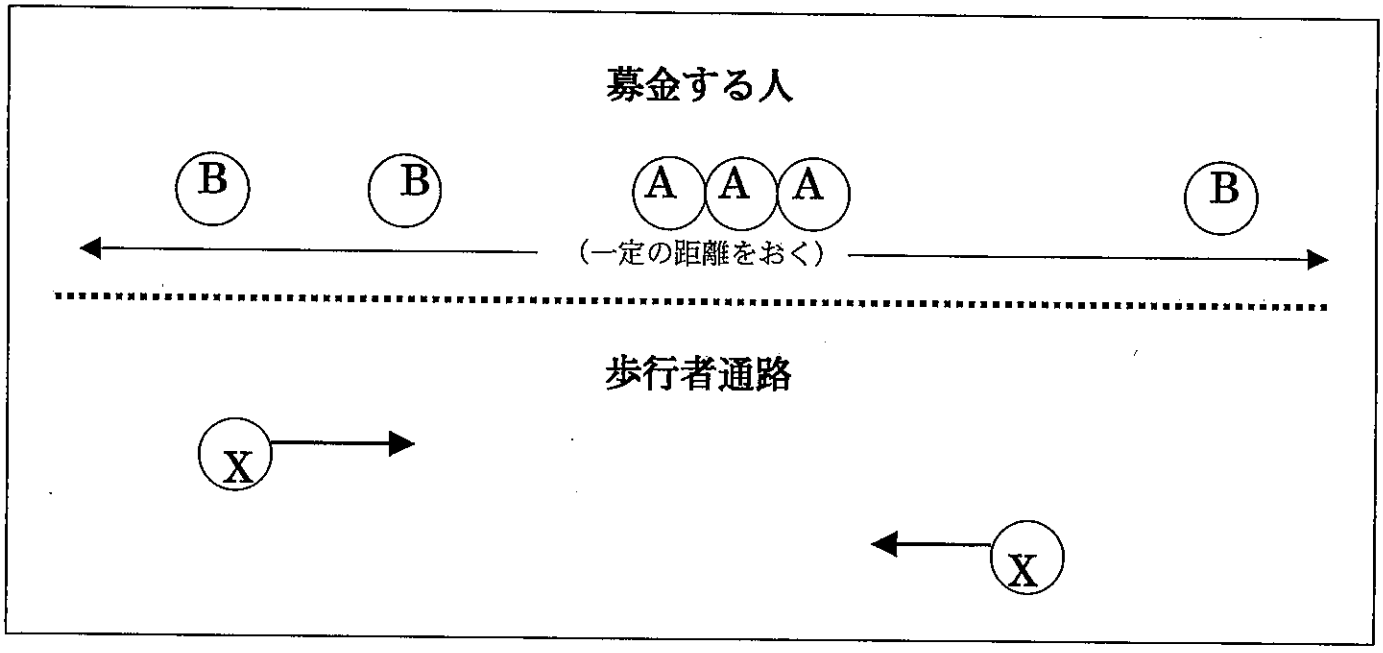
それぞれの目的と活動のポイントを説明しましょう。

① メンバーの立ち位置

これは、街頭募金の主な目的です。ここで集められた資金が、この活動の基本的な資金となり、ネパールの子供たちの野球道具やその他の活動資金として使われるわけです。

活動を行うポイントとして、次のことがあげられます。

まず下の図を見てください。



、ＡとＢが募金する人、Ｘは歩行者と考えてください。

Ａは中心にたって大きな声で呼びかける人（声の通る人がよい）、Ｂはその周りで呼びかける人とする。

Ａは、一部に固まって、勢いよく募金を呼びかけます。そして、Ｂはそこから少し離れたところでぽつんと呼びかけます。そこにＸの通行人が通りました。Ｘは「募金してもいいかな」と考えているとします。

Ｂが存在せず、Ａのみで募金の呼びかけを行っている場合、Ｘが募金できる性格ならそれでよいのですが、Ｘが目立ちたくないといった性格の方なら募金しづらいでことになります。

そんな場合にＢの募金する人を置くことによって、目立ちたくない、金額を見られたくないなどといった考え方をしたかたから、比較的寄付してもらいやすくなります。

実際、Ａの募金箱よりも、Ｂの方が多く入れられています。

また、募金活動の１つグループＡ、Ｂは一定の広い距離をもって活動するほうがより効果が得られます。歩行者は突然募金活動グループと遭遇するので、寄付することを考え、悩む時間が必要です。募金の１グループの幅が狭ければ、当然悩む時間も短くなり、また、財布をだそうとしている間に通りすぎてしまうケースも考えられます。そこで、一定の距離をもつことで、わざわざ止まらずにでも財布を出し寄付金を募金箱に投入できるようになるわけです。

また、横断歩道で信号待ちしている方々に、２人で１ペアーのグループが前にいって直接、一人一人募金をよびかけたところ多額の寄付金が集まったということもありました。

② 活動時間

募金活動は、１回の募金活動で昼から夜まで行うことにより多くの効果が得られます。
昼は、これから買い物等に繰り出す方が多く、基本的に寄付金は集まりにくいです。しかし、あせることなく目立つように募金活動を行っておきます。そして夜を迎えると昼に通った方々が、帰宅するため戻ってきます。その時が、ポイントです。行くときと帰るときにこの活動を目にした方は、「まだ、がんばって募金していたのかぁ」と、寄付していただくことがあります。また、夜は飲酒等で心地よくなっている方も多く、時に多額の寄付をいただくこともあります。買い物が終わって少しおつりがある方、帰りに入れようと思っていた方からの寄付もあります。また、以前から家で募金用に貯めていたような貯金箱をいただくということも多々あります。

しかし、あまり夜遅くまで行ってしまうと、この活動が信頼されなくなったり、健全なイメージでなくなってしまうといった逆効果をもたらすので注意しましょう。

③ 広報活動

街頭での募金活動は、この活動を知ってもらえるチャンスという捉え方ができます。

商店街付近で街頭募金活動を行う場合、そこを通る人々は一万人をゆうに超えるでしょう。私たちが活発的に募金を呼びかけることによって、それらの人々に私たちの活動を知ってもらうことができるのです。また、それを聞いた通行人の中には、帰宅後、家族や友達などに話す方もでてくるでしょう。

そうやって多くの方々にこの活動を知ってもらうことで、一般の方々からの私たちのグループの信頼が高められていくでしょう。

歩行者の心理

積極的、消極的、不信感を持っているといった様々な性格を持った方々から、募金をしてもらいます。

あなたは街で街頭募金活動をしている前を通りかかったことがありますか？

そんなとき、あなたは募金をしてもかまわないが、はずかしい、財布をだすのが面倒くさい、いい人ぶるのがいやだ、などといったことでその前を素通りしてしまったことはないでしょうか。

多少なりとも、そういったことで、募金をせずに通りすぎていく通行人もいるでしょう。もしかしたら、そこに友達がいれば寄付していたかもしれません。

今までの経験から述べると、カップルの方、子供連れの方、からの寄付が多く見られました。

呼びかける話の内容

街頭募金で呼びかけるときの内容は、なんでもいいように思われますが、少し工夫をするだけで、それ以上の共感を得ることもあります。

その呼びかけのポイントを紹介します。

「私たちは、野球の知られていない国「ネパール」に野球を広める活動をしています。」
「私たちは、ネパールの子供達に野球を広める活動をしています。」
「私たちは、ポカラ市内の小中学校の生徒に野球を広める活動をしています。」
「この活動は、大学生が中心となって行っています。」

これは、私たちの活動協力を呼びかける時に、大きな売り文句になります。

「野球の知られていない国「ネパール」に野球を広める」という言葉には、冒険心が強く感じられ、熱いことが好きな人はこの言葉で振り向くことがあります。野球を愛する人も強力したくなる言葉でしょう。

「ネパールの子供達に野球を広める活動」とか「ネパールの小中学校の生徒に野球を広める活動」という言葉は、特に現在、家庭に小中学生の子供を持つ親御さんにとって「子供」「小中学生」という言葉には敏感です。だから、お子さん連れ、お子さんがいそうな人が通るときは、このような呼びかけが妥当でしょう。それから、小中学校という言葉は、ネパールと公式に行っているようなイメージがあり、活動に信頼を得やすいでしょう。

「大学生が中心となっている活動」というフレーズも、信頼性があり、また、若者の熱い活動に応援したくなることもあるので、おじさん、おばさんなどにはいい言葉だといえます。

その他、団体の所属（プール学院大学異文化間協働センター所属「野球を広める会」）を伝えることも大切です。

参加者の持ち物

夏　帽子、タオル、弁当、水筒など

冬　軍手（必需品）、帽子、タオル、弁当、水筒など

募金活動のポイント

「募金活動は誠意が命」
募金活動を最大限生かすための７か条、次のことを守りましょう！

- 活動中は私語をつつしみましょう！
- 飲食は離れたところでしましょう！
- 立って呼びかけましょう！
- お礼は大きな声で！
- しんどいときは無理をしない！
- 水分は十分にとりましょう！
- 荷物の管理をきちんとしましょう！

一般の方々にとって私たちの活動は立派な日本・ネパール間の「ボランティア活動」とみられます。
また、街頭募金はその場限りになりがちです。募金しているからといって必ず、その団体が寄付金を正確に使用している、ということは不透明で一般の方々に信用されにくいものです。実際、架空のボランティア団体、あるいは個人が募金をするといったケースもあります。その部分をいかに信用してもらえるかということが募金の金額に直接つながってきます。そんなことから「誠意」をいかに上手く伝えるかということが、街頭募金のキーポイントとなってくるでしょう。
そのため、携帯電話の会話も含め、一人でも私語をしているというのはグループの信用につながるので厳禁。そして、飲食等は人目のつかないところでとるか、店にいくようにしましょう。無理せず休憩を十分にとり、水分補給も忘れずにおこないましょう。お茶類は、声をだしにくくなるため、糖分の混じった飲み物をお勧めします。
また、貴重品等は各自管理し、その他の荷物はまとめて管理のできる場所にあつめておくといいです。
私たちの活動は、若さと活気があります。そこを皆さんにアピールすることが大切です。

街頭募金はこの活動を多くの人に知ってもらう最高の場です。

「自分の熱い気持ちを伝えましょう！」